

資料 1

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月19日

協議会名: 栃木市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
千代田タクシー有限会社 栃木合同タクシー株式会社 有限会社大平タクシー 藤岡タクシー株式会社 有限会社都賀タクシー 株式会社新交通 岩舟タクシー株式会社 安全タクシー有限会社	デマンド型交通「蔵タク」 営業区域: 北部エリア・南部エ リア 運行日: 月曜～金曜(祝日・ 12/29～1/3を除く) 運行時間帯: 8時～16時 運賃: 400円	・アフターコロナ、ウィズコロナ を見据え、(一度中断された) 利用促進に関するイベント等を 再開(実施)できるよう、行政か らバックアップすべきとの評 価結果を受け、各自治会やシ ニアクラブ等への出前講座を 積極的に実施し、蔵タクの利用 の呼びかけを行った。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の 三者で役割分担を行い、地域 (住民・利用者)が主体的に関 与する仕組みを構築すべきと の評価結果を受け、コミュニ ティバスを中心に職員による添 乗調査を行い、利用者から公 共交通に関する意見の聞き取 りやアンケート調査を行った。	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	C 事業が計画に位置付けら れた目標を達成できなかった。 収支率 目標: 15.0% 実績: 12.0% 利用者数 目標: 200人/日 実績: 174.1人/日 (コロナ禍前R1: 253.4人/日) 分析: 蔵タクの利用目的の ほとんどが通院・買い物で あるが、新型コロナウイルス 感染症による行動制限の 生活習慣が、コロナ禍後も 続いていると推察されるた め、利用者数がコロナ禍前 に回復しないと考えられる。	・持続可能な公共交通のため には人口減少を見越して、限り ある資源をどのように分配する かという経営的視点が必要で ある。アフターコロナ時代に合 わせた、需給のバランスに注 視したい。 ・新型コロナウイルス感染症対 策として実施していた蔵タクの 乗車制限を令和5年4月1日に 解除したが、利用者数の回復 が見られない。引き続き出前講 座等を実施し、高齢者等への 周知を図るとともに、コロナ禍 で変化した利用状況を注視し ながら、コロナ禍前に設定した 目標の改訂を検討していきたい。

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 1月19日

協議会名：	栃木市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	栃木市地域公共交通網形成計画の基本的な方針： ・市民目線に立った利便性の高い公共交通の充実 ・将来にわたり持続可能な公共交通網の構築 ・コンパクトシティのまちづくり、経済の活性化、観光の振興、環境負荷の軽減など、魅力あるまちづくりを視野に入れた公共交通の充実 上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性： ・高齢社会の進展等による高齢者等の移動困難者の増加に伴い、通勤・通学・通院・買い物等の市民の日常生活の足の確保や、社会参加の機会を提供する。 ・高齢者等の移動困難者対策と公共交通空白地域の解消を推進するとともに、コミュニティバスでは補いきれない地域をデマンド交通で埋めることで、地域の特性や住民のニーズに適合し、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築する。